

午後Ⅱ試験

全問共通

システム監査技術者試験では、システム監査人の立場から論述することを求めているが、システム担当者としての対応を論述している解答が散見された。また、監査手続を求めている論述では、そもそも監査手続の意味を理解できていなかったり、監査の実施内容を論述したりしているものが目立ち、確かめるべき監査項目と監査証拠について具体的に論述できている解答は少なかった。問題文の内容を踏まえて、設問で求めていることを論述するように心掛けてほしい。

問1

問1では、AI技術の利用目的とAIシステムの概要については具体的に論述している解答が多かったが、AIシステムの利用段階において想定されるリスクについては、コントロールを論述していたり、企画・開発段階のリスクを論述したりしている解答が散見された。また、AIシステムの導入目的、開発手法、ユーザ・ベンダ間の取決めなどが適切かどうかを企画・開発段階で確かめる監査手続についての論述を求めたが、利用段階における監査手続であったり、確かめるべき具体的な監査証拠を記述していなかったり、監査を実施した結果を論述したりしている解答が目立った。設問で問うていることを正しく理解して、論述してほしい。

問2

問2では、IT組織の役割・責任の変更に伴うリスクと対応策、及びその取組状況を確認するための監査手続について論述することを求めているが、個別の情報システム開発やクラウド導入プロジェクト管理などに関する論述が散見された。また、論述しているリスクについても、問題文の記述をそのまま使ったり、IT担当者の能力だけの対応策であったり、設問アで論述したIT環境の変化と整合していない一般論に終始したりする論述が目立った。問題文の趣旨を正しく理解して、設問ア、イ及びウで一貫した論述を心掛けてほしい。